やつお町屋めぐりガイドツアー

「八尾発祥の地コース」石垣と歴史秘話

歴史秘話

デジタルマップ

◆日時
10/10(土)14時から1.5時間（受付13時30分より）
10/11(日)14時から1.5時間（受付13時30分より）
◆集合場所
八尾町西町公民館（富山市八尾町西町2283）
◆参加無料　◆募集定員　各20名（先着順）

④【高札所跡】二股の辻
宝憧寺跡地の街路開設前は、間名寺から東町、西町へ向かう人は必ずこの二股の辻を通った。
往来で賑わったこの辻には、天保14年(1843)の「八尾町絵図」によると、高札所が置かれていた。
ここでお上からのおふれを見た。

③【寺子屋｜金泉寺屋】きんしょうじや上野青果店
江戸時代から八尾では寺子屋が盛ん。天保・弘化（1830～48）の頃、西町では能筆で名高い金泉寺屋六兵衛（上野青果店の祖）が塾を開き、塾生は百名を越えた。

②【恵比須通り】
明治40年に開通したこの通りには、「恵比須通り」という立派な名前が付いている。
もちろん、その名前は西町の曳山に堂々と鎮座する神像恵比須様に由来する。
開通して間もなく120年を迎える。

①【西町公民館】
平成２１年に建て替え。大正時代迄は旅館であった。西町住民の公民館としての活用はもとより,５月の「曳山祭り」には、２階の床を取り外して曳山の組立、保管場所として活用。 ９月の「おわら風の盆」の雨天時には、観光客向けのステージ　として1・２階を利用し、おわらを披露するなど活用されている。



西町公民館



⑤【金毘羅堂】宝憧寺跡地街路
かつて宝憧寺の庫裏だったところで今も町民の信仰が篤い。 曳山祭礼が終わると、西町の役員が「火祭り」と称してここに集まり、町内の無事を願う遺風が残る。
現在の金毘羅堂の前面道路には、江戸時代の終わりに宝憧寺が建立された。慶応３年(1867)の江戸幕府による大政奉還以後の神仏分離令・廃仏毀釈の影響によりこの地にあった法幢寺は廃寺となり明治３年(1870)に取壊わされた。また、門名寺、合寺、太子堂・山門も取壊わされ、明治１８年(1885)には西町通りの延長として街路が　開通した。



集合：スタート
西町公民館



⑮【四十物横丁】あいものよこちょう
少兵衛は、二つの通りを開いて西町・東町とした後、自邸の前面に両町をつなぐ通りを設けた。この通りは八尾から笹原に抜ける道として賑わった。 塩魚類を取り扱う店があったことから「四十物横丁」と呼ばれた。

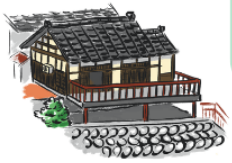


⑥【甚九郎の渡し】じんくろうのわたし
昔この地は「甚九郎の渡し」と呼ばれる渡場があった。
人々はここで小舟に乗って川を渡り、八尾に入った。
天保14年（1843)の「八尾町絵図」に甚九郎橋が描かれている。
甚九郎橋の架橋以後、渡し船はその使命を終えた。



⑭【米屋少兵衛宅跡】八尾町発祥の地
寛永13年（1636)、剛胆で名を馳せていた財産家の少兵は、加賀藩から許可をもらい八尾の町建てをした。
少兵衛はここに邸宅を建て、米屋を営んだことから米屋少兵衛と呼ばれるようになった。

⑬【弁天通り】
こんな小さな横丁も「弁天通り」という立派な名前を持っている。 開通した明治43年（1910)当時、西町側の突き当りにあった「弁天座」という劇場に由来する。 観客で賑わったが、大正末期閉館となり、通りの名だけが残った。



いしがき亭

⑦【禅寺の坂】と石垣・いしがき亭
寛永13年（1636)の八尾の町建で西町は繁栄し、月９回市場（九斎市）が開かれた。
保内、室牧、山田の人々や富山、高岡の商人がこの坂を通って西町に入った。
平成14年に国土交通省「手づくり郷土賞」を受賞している。
最大高低差40メートル、全長400メートルの石垣は八尾町を象徴する景観です。

⑧【狼地獄】
その昔、西町に狼が一匹迷い込んだ。 住民たちはこの狼を追い詰め、崖下に転落させ退治した。
以後、一帯は狼地獄と呼ばれ、「俊敏な狼でさえ命を落としたのだから近づいてはいけないよ」と、親から子へ語り継がれている。

⑨【天満宮】
「禅寺」の天神と称される菅原道真の画像（渡唐天神）あり。
江戸期より全町の寺子屋の崇敬がよせられ、現在も毎年5月の第４土日曜日に祭礼が行われる。



⑩【宗禅寺】禅寺
寛文年間（1661）に創立されたが一時空寺となり、町民信徒が飛騨より尼僧宝庵智鏡を迎えた事が尼僧寺の始まり。
所蔵の華厳釈迦像は非凡の作と伝えられる。

⑪【西町曳山蔵】
明和８年（1771)西町は他町に先駆けて花山を廃し、今日に伝わる豪華な「八つ棟山」に改め、恵比須神を鎮座させて曳き回した。普段はこの山蔵でご神体と共に保管をしている。
祭礼日は毎年５月３日（祝）

⑫【お忍び道】遊郭への崖沿い小道とおたや階段
お隣の鏡町に遊郭が出来たのは、明治33年（1900） 西町の通りを歩いて遊郭に向かうのは、人通りが多くてさすがに気が引けたようだ。そこで、客は禅寺坂からそのまま崖沿いの裏道を通り、人目を忍んで遊郭に通ったという。



【ひと口メモ】
道のり：2Km
高低差：30m
歩数：3000歩
歴史秘話：
室町～江戸時代

企画運営：一般社団法人創八尾
デザイン：ちょきペタ工房きむら